

本格化するクラウドビジネス時代を支える JP1 V9.5

ITリソースの効率化やコスト低減などを目的に導入が進んできたクラウドコンピューティングは、東日本大震災以降は事業継続性という観点からも、その活用が一段と加速しています。また、営業・提案活動の現場ではモバイルPCより手軽でコンパクトなスマートフォンやメディアタブレットへの移行が進んでおり、企業ではその管理が重要な課題となってきました。そこで統合システム運用管理「JP1」は、本格化するクラウドや多様化するビジネス環境に対応した「JP1 Version 9.5 (以下、JP1 V9.5)」をリリース。クラウド環境の運用性向上とスマートフォンを含めたIT資産管理の強化により、お客さまシステムのさらなる効率運用を実現します。

クラウド環境の運用性をさらに向上

クラウドビジネスの本格化や震災などへのリスク対策にともない、企業では取り扱うデータやサービスレベルに合わせ、オンプレミス（従来型の企業内システム）、プライベートクラウド、外部のパブリッククラウドなどで業務を分散して運用するケースが増えています。このため、進展するクラウド環境の効率的な運用管理やサービスレベルの維持が一段と重要な課題となってきました。

また、企業内のデータセンターやプライベートクラウドでは仮想環境の効率運用だけでなく、運用の標準化と自動化もコスト削減に向けたシステム最適化に不可欠な要件となります。こうした観点からJP1 V9.5では仮想環境/クラウド環境での運用に必要な「効率運用」「サービスレベル」「自動化・標準化」をポイントに数々の機能強化と新製品の投入を行い、お客さまの運用業務の効率化をさらに加速させていきます。

課金管理とセルフサービスポータルで ITリソース管理の効率化を支援

複数の利用部門がリソースを共有するプライベートクラウドでは、運用サイクル全般にわたるITリソースの一元管理によって

管理者側の作業効率は大幅に向上します。しかし、コストの最適化も含めた効率運用を推進していくには、利用者側にも“むだな投資を抑え、限られたリソースを有効活用する”という意識の醸成とアクションが必要です。

そこでJP1 V9.5では、ITリソース管理「JP1/IT Resource Management-Manager（以下、JP1/ITRM）」に、利用者が所属する部門ごとに課金情報を出力できる「課金管理」機能を追加。「料金」というコストを意識することで、利用者みずからが過剰なリソースを返却したり、リソース使用量や予約割り当て実績などの課金情報を管理者が容易に出力できる環境を提供します。また、セルフサービスポータル対応の機能を強化^{※1}し、管理者に問い合わせることなく、仮想マシンの操作やリソース使用量の参照が行えるようにすることで、さらなる効率運用を実現します。

※1 2011年下期対応予定

運用の効率化を支援するマルチテナント対応

統合コンソール「JP1/Integrated Management」とサーバ稼働管理「JP1/Performance Management」を連携させた運用の効率化では、従来から提供していたエージェントレスのリソース/プロセス監視に加え、新たにログ監視もサポート。構成を変更することなく容易にシステムの監視業務が行えます。

また、両製品ともにマルチテナントに対応しているため、監視マネージャーを統合しても、各管理者の監視範囲を維持しながら運用管理を継続することができます。

サービスレベルの「見える化」と 予兆検知を実現する「JP1/ITSMLM」

ITリソースと業務の組み合わせがダイナミックに変動するクラウド環境では、さまざまな業務のサービスレベルをリアルタイムに把握して、利用者に安定したサービスを提供する必要があります。そこでJP1 V9.5ではサービスレベル管理の新製品「JP1/IT Service Level Management（以下、JP1/ITSMLM）」を提供。利

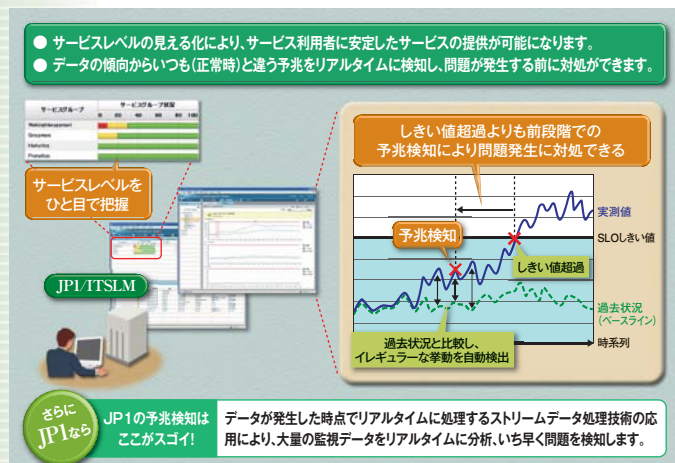


図1 JP1/ITSMLMの機能概要

ユーザーが体感するサービスレベルを見やすく管理者に表示して、的確な判断をうながします。

またJP1/ITSLMは、データが発生した時点でリアルタイムに処理するストリームデータ処理技術の応用によって、大量の監視データをリアルタイムに分析し、いち早く問題を検知する機能を備えています。これにより、SLO※2で定めたしきい値を超える前に、正常時と違う予兆をスピーディに検知し、障害発生を未然に防ぎながら対処することでサービス停止を極小化します。なお、予兆精度の実証実験では、問題が発生する1時間前までに85%以上の障害を予兆検知できることを確認しています※3(図1)。

※2 Service Level Objective

※3 お客さま環境での通信高負荷時の障害を対象にしたプロトタイプ検証の結果による

さらにJP1 V9.5では、オンプレミス/プライベートクラウド/パブリッククラウドが混在したハイブリッド環境など、クラウド環境の運用性向上に向けた機能強化を行っていきます。その第1弾として、Windows Azure™対応を実施します※4。

※4 2011年下期対応予定

多様化するビジネス環境の管理負担を軽減

電話やメールはもちろん、スケジュールやオフィスキュメントの閲覧・編集などをマルチに実現できるスマートフォンやメディアタブレットが、ビジネスの現場でも急速に普及しています。このため企業では、管理対象となる機器の種類や範囲が増加し、IT資産管理業務の負担が増大しています。そこでJP1 V9.5では、IT資産の購入計画から運用保守、廃棄までの一連のライフサイクルを一元管理し、シンプルで効率よい管理を支援するための新製品「JP1/IT Desktop Management(以下、JP1/ITDM)」を提供します。

IT資産のライフサイクル管理を効率よく実現するデスクトップ管理新製品「JP1/ITDM」

「JP1/ITDM」は、長年高い評価をいただいていた統合資産管理「JP1/NETM」の後継となる製品で、IT資産のライフサイ



図2 スマートフォンなど新しい環境への対応

クル管理をオールインワンで実現。運用効率をアップするため、UX※5指向の使いやすいWeb画面を提供し、各業務を統一したシンプルで心地よい操作性と高い視認性によって、管理者の作業負担を軽減します。

標準でスマートフォンやメディアタブレットの管理項目を用意し、従来からサポートしてきたクライアントPCと同様の管理をスマートフォン、メディアタブレットでも実現。今後、リモートロック、リモートワイプ、ポリシー管理などの機能に順次対応していきます※6。

さらに、すぐに使えるレポート画面も標準で提供し、資産管理における報告業務の効率をスピードアップします(図2)。

※5 User Experience

※6 2011年下期対応予定

エンタープライズ対応のJP1/ITDM

JP1/ITDMは、JP1ならではの高いスケーラビリティを誇り、大規模集約化環境でもマネージャー1台で全体を管理することが可能。会社単位、組織単位、部署単位に複数の管理者で管理業務を分担するようなマルチテナント運用にも対応します。

また、リモートサイトサーバの設置により、大規模構成でも配布性能/操作ログ検索性能を確保。ワールドワイドでシステムを統一して運用したいというニーズにお応えするため、日本語、英語、中国語など複数言語が混在していても1台のマネージャーで管理できる機能も備え、グローバル展開にも安心してお使いいただけます。

お問い合わせ先

HMCC(日立オープンミドルウェア問い合わせセンター)

☎ 0120-55-0504

利用時間 9:00~12:00、13:00~17:00(土・日・祝日・弊社休日を除く)

携帯電話、PHS、一部のIP電話など上記フリーダイヤルがご利用いただけない場合

TEL (03) 5439-2733

情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>